

平成25年度 第4回小平市公民館運営審議会 会議要録

- 1 開催日時 平成25年9月17日(火) 13:30~15:30
- 2 開催場所 小平市中央公民館 会議室
- 3 出席者 小平市公民館運営審議会委員 12名(1名欠席)
事務局 中央公民館長、館長補佐、管理係長、分館主査8名(2名欠席)
- 4 傍聴者 1名
- 5 配布資料 (1) 平成25年度公民館運営審議会計画表・・・・・・・・・・資料1
(2) 平成25年度小平市公民館定期講座実施状況表・・・・・・・・・・資料2
(3) 平成25年度行事等結果報告(分館のまつり実施)・・・・・・・・・・資料3
(4) 公民館講座のための意見交換会結果報告・・・・・・・・・・資料4
(5) 平成25年度東京都公民館連絡協議会定期役員会(第2回)記録
・・・・・・・・・・資料5
(6) 平成25年度第3回小平市公民館運営審議会会議要録・・・・・・・・・・資料6
(7) 小平市第三次長期総合計画
中期的な施策の取組方針・実行プログラム(写)・・・・・・・・・・資料7
(8) 夏休み学習室開放結果集計表・・・・・・・・・・資料8
- 6 次 第 (1) 館長報告
(2) 平成25年度公民館定期講座実施状況について
(3) 平成25年度公民館まつり開催報告について
(4) 公民館講座のための意見交換会について
(5) 平成25年度東京都公民館連絡協議会役員会・職員部会・委員部会
報告について
(6) 平成25年度第54回関東甲信越静公民館研究大会について
(7) 公民館のあり方の検討(藤沢市の視察報告)
(8) その他

会議の概要

1 館長報告

(1) 9月市議会定例会について

①教育委員の任命について

②公民館に関連した代表質問について

「小平市が目指す教育の実現にどう取り組むのか」(政和会・佐野郁夫議員)

中央公民館の耐震化及び複合化について

(答弁) 中央公民館の耐震化については、生涯学習の拠点であると同時に、防災上重要な施設であることから、市の耐震改修促進計画に基づいて耐震化を進めていく。複合化については、将来、施設更新の際の検討課題と捉えており、現在は考えていない。

③「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」について

総務委員会の補正予算審査において、この事業の予算案が全会一致で採択された。本会議での採決の後、予算化され、事業の実施に向けて進めていく。

(2) 第54回関東甲信越静公民館研究大会について

8月29日、30日に、新潟県南魚沼市、湯沢町で開催され、東京都公民館連絡協議会会長市として参加した。

(3) 新仲町公民館・図書館工事の進捗状況について

解体工事が終了し、現在、地下を掘り下げる工事を進めている。11月には、新仲町公民館・図書館の愛称の募集を行う予定で進めている。

(質疑応答)

委員 新仲町公民館・図書館の愛称の募集を行うとのことだが、誰が選定するのか。市民は選定に関わることができるのか。

事務局 正式には決まっていないが、教育長、理事、設計者の妹島和世氏等が選定委員になる予定となっている。市民は選定には関わらない予定であるが、学識経験者は選定委員に入る可能性がある。

委員 「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」について、現段階で具体的に進めていることはあるか。

事務局 小平第十三小学校学区の社会資源と呼ばれる、自治会関係者、福祉関係者等に地域の防災の課題を確認するため、アンケートを実施した。その結果を事業の中に取り入れて実施に向けて進めていく。

委員 防災については委員の関心が高いので、公民館運営審議会でも相談してほしい。

事務局 このプログラムの申込みが年度当初だったため、相談する時間がなく、また、採択されるかどうか不確定であったので、採択されてからの報告となった。今後は随時報告していく。

2 平成 25 年度公民館定期講座実施状況について

事務局より資料 2 及び市民学習奨励学級の進捗状況について説明した。

(質疑応答)

委員 市民学習奨励学級について、予算額はいくらか。近年増減はあるか。

事務局 予算額は 660,000 円で、内訳は主催講座と同様に、1 回につき 22,000 円で、5 回 5 団体、1 回 5 団体となっている。近年はこの予算に変化はない。

委員 どの主催講座からサークル化したか、データを残しているか。公民館の意義を訴えるときに、主催事業からこれだけサークル化しているという実績が出ることは非常に重要ではないか。

事務局 事業実績の中で、サークル化した主催講座には印をつけている。

委員 小川西町公民館の「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」の事業について、具体的な内容を知りたい。

事務局 補正予算金額の中で、主なものはイベント等委託費に充てられ、小平第十三小学校青少対まつりとコラボレーションして実施する子ども向けの防災体験プログラム実施のための費用となる。現在、この事業実施について、青少年対策十三小地区委員会の了承を得るため、調整に向けて準備を進めている。

委員 自治会との関わりはないのか。

事務局 チラシの配布や防災課題を確認するアンケート等で協力を得ている。

委員 今年度の事業の目玉としては、高齢者学級があり、講座としては非常に良いものだと思うが、受講応募が多い館と少ない館がある。人が集まらない要因として何か考えられることはあるか。

事務局 中央公民館のシルバー大学は、今年度から、昨年度の受講者を2年生として、1年生、2年生という学年形式で実施している。受講者からは、内容的に難しそうという声があり、敬遠される理由として考えられる。しかし、これまで以上に、仲間づくりはもちろん、地域のリーダーとなる高齢者を生み出せる内容となるよう努力している。今後、PRを進めていきたい。大沼公民館については、健康とボランティアを主なテーマとして講座を開設し、自治会や各地域センターにも広報をしているが、ボランティアというテーマが少し敬遠された印象がある。

委員 シルバー人材センターや地域センター等もあるので、公民館以外の高齢者が集まるところにもチラシを置く等、積極的にPRしてほしい。

委員 高齢者学級について、高齢者といっても幅が広く、60代と80代では活動の目的や内容が異なる。ターゲットをどこに置くかを考えることが重要ではないか。また、大学でも地域貢献は重要な課題として認識されており、学生を地域で活動させたいと考えている。大学にも講座やイベントのチラシを置いたり、ボランティアサークルに声をかけたり、講座やイベントを手伝う学生ボランティアのお願いをする等して、大学生を積極的に公民館に取り込んでみてはどうか。

委員 チラシによって受講者の人数が左右されるようなので、チラシコンクールを開催する等して、より効果的なチラシづくりを研究してほしい。また、平成25年度の事業計画をもとに講座を実施していると思うが、実施後も事業計画と照らし合わせてチェックし、翌年度以降の事業計画に反映して行ってほしい。

3 平成25年度公民館まつり開催報告について

事務局より資料3について説明した。

年内の予定については、10月12日、13日に小川西町公民館まつり、10月26日、27日に上水南公民館まつり、11月9日、10日に小川公民館まつり、花小金井北公民館まつり、11月16日、17日に津田公民館まつり、11月23日、24日に鈴木公民館まつりが実施される。

4 公民館講座のための意見交換会について

事務局より資料4について説明した。

希望する講座で特に多かったのは、小平に関する講座（郷土、歴史、農業、産業）、父親や男性が参加できる講座、介護、憲法、趣味の講座等であった。また、応募者の多い講座については、落選した人に再度受講できる機会を設けてほしいとの意見もあった。寄せられた意見をもとに、来年度に向けて、実施方法等を検討していく。

(意見等)

- 委員 意見交換会に参加して市民、受講者の意見を踏まえつつ、公民館運営審議会委員も交えながら、企画のアイデアを出せる機会が非常に大切だと感じた。
- 委員 6、7年前から意見交換会に出席しているが、毎回10名程度しか出席しておらず、意見を出す人もわずかだ。部屋割調整会議では、定期利用団体の代表者が一堂に集うので、その機会を利用すれば、さらに幅広い意見を収集できるのではないか。
- 委員 何年か前から参加しているが、地域の方の貴重な意見を聞くことができる場となっている。ここで出た意見をもとに、来年度の講座を企画していくことになると思うが、講座の企画の流れとしては、まず各館の主査及び担当者で企画するのか、それとも、全体の調整の中で企画していくのか。
- 事務局 各館の主査及び担当者が、意見交換会で出た意見と生活課題、地域課題等と照らし合わせて企画案を出し、内部でヒアリングを行い、公民館運営審議会の意見を反映しながら進めていくこととなる。今回は、例年と比較して、意見交換会を早期に実施できたので、話し合いの中で、企画についてしっかりと詰めていきたい。
- 委員 例年、事業を実施してから意見を出すことが多かったので、企画段階から意見を反映できる機会があるならば、ぜひ一緒に考えていきたい。
- 委員 男性が少ないという声が多いのであれば、男性向けの講座、例えば男の料理教室等を、各館で順に開設する等して、男性の受講の機会を意識的につくってはどうか。また、健康センターの講座では、応募が2回目以上になると当選確率

が高くなるように抽選をしている。そうした手法も今後取り入れてほしい。

委員 意見交換会と名を打って参加者を集めるのはなかなか難しいと感じた。各講座の終了後に、受講生から意見を募ることでより多くの意見を収集できるのではないか。

委員 講座だけでなく、施設面についても意見が出た。特に、小さな子ども連れのお母さんにとっては、トイレやおむつ替え・授乳スペースが重要だ。生涯学習の拠点であることを意識して、皆が利用しやすい施設にしてほしい。そのための予算はあるのか。

事務局 壊れてしまった場合には修繕をするが、改修については、要望があってから、次年度の予算に計上することになる。

委員 意見交換会で、どのような趣旨で講座を開設しているか、全体的な事業計画を参加者に伝えることで、さらに問題を引き出すことができるのではないか。

委員 館によって参加者数に差があったようだが、参加者が多い館ではどのような告知を行ったのか。

事務局 花小金井南公民館では、チラシだけではなかなか参加者が集まらないので、書面でも参加できるという形でアンケートを配布したり、さまざまな機会を利用者と良い関係を続けられているおかげで、多くの人が参加してくれた。大沼公民館では、部屋の鍵貸しの際にアンケートを配布した。

5 平成 25 年度東京都公民館連絡協議会役員会・職員部会・委員部会報告について
事務局、委員より資料 5 - 1 から 5 - 5 について説明した。

(意見等)

委員 委員部会第 1 回研修会の、避難訓練と避難所訓練は全く別だという話が印象的だった。公民館は避難所に指定されているので、避難所になるという想定で訓練することも重要だと感じた。

6 平成 25 年度第 54 回関東甲信越静公民館研究大会について
委員より資料 5 - 6 について説明した。

7 公民館のあり方の検討（藤沢市の視察報告）

事務局より、以下のとおり報告した。

公民館の市民運営を実践している藤沢市の視察後、職員の公民館のあり方検討プロジェクトの中で、主に以下の4点について、検討を行った。

- ①市民運営にすることで、市民センター機能を持つことについて（教育委員会から市長部局への所管替え）
- ②市長部局へ移行することで、柔軟で効率的な運営ができるか。
- ③市民運営団体を設立するために、社会教育に精通した市民を育てる必要がある点について
- ④職員と市民・地域の関係づくりのため、職員を必要に応じて派遣可能か。

尚、藤沢市では、市民センターと併設している館は、市民センターの職員が公民館業務以外の業務を担い、市民団体が公民館事業を運営しているが、市民センターと併設でない単独館については、正規職員が配置され、公民館事業を運営しているとのことであった。

職員の公民館のあり方検討プロジェクトでは、市民運営のメリットとしては、人件費等の経費削減、民意の早期反映があるが、デメリットとしては、経理及び施設管理を円滑に行えない点、市民と職員の関係が希薄になる点にあるとした。

このような検討の結果、市民にとって有益なのは、民意を早期に反映させることであり、そのために市民運営の実現に取り組むべきという結論に至った。

経理及び施設管理面の円滑な運営については、正規職員でなくても、臨時職員、嘱託職員等で対応可能である。それ以上に、公民館事業を企画運営できる人材育成が課題であり、その土壌ができるまでは、職員が深く関わっていかなければならないと考えている。

今後、この内容については、公民館運営審議会委員の意見を聞いて、検討していく。

8 その他

（1）夏休み学習室の開放について

事務局より資料8について報告した。

次回は、12月17日（火）午後1時30分より、中央公民館会議室にて開催する。